

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部看護学科

名 前 内田 都

作成日 2023 年 9 月 28 日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

授業科目 基礎分野：必修1学年「心身健康科学」「大学生入門」、専門分野：必修2学年「家族看護学」、必修1学年「老年看護学概論」、必修2学年「老年看護援助論Ⅰ」「老年看護援助論Ⅱ」、選択3学年「認知症ケア論」、必修1学年「基礎看護学実習Ⅰ」、必修3学年「老年看護学実習Ⅱ（健康障害時）」、必修2学年「老年看護学実習Ⅰ（生活支援）」、必修4学年「統合実習」、必修4学年「看護研究Ⅱ」、必修4学年「領域別専門看護学演習」、選択4学年「看護研究Ⅲ」、統合Ⅱ生命と健康のシステム「老年看護（T）」、いのちと健康のしくみ「老年期と看護（T）」

教育活動 領域長、研究委員会担当、FD推進委員会担当、1~4学年の主担任、学生委員会担当、学生相談担当、クラブサークル（トップアスリート育成サークル）活動の顧問、学外医療講座担当、学外学会査読委員、これらの主活動の他に、オープンキャンパス、地域連携行事などの社会活動の協力。

大学教員としての教育・研究活動について、大学教員の役割を振り返り、学生指導を考えるにあたって、国づくり、社会づくりへの貢献などを意識し、組織の中で業績を考え期待される結果につなげられるように努めている。具体的には、学年主担任として、学生の途中退学を出さないように教員間の連携を図り指導している。課外授業では、オープンキャンパス、地域連携行事など社会活動、国際情勢へ目を向け活躍できる機会を利用し、学生への方向付け、地域住民の関心が深められるよう努めている。

大学のミッションとしての教育活動に着目し、研究、教育、管理運営、社会的活動の4つの柱を目標に活動を続けている。日ごろの教育に関しては領域担当の授業の工夫を行い、学生の評価を得るようにしている。学生の研究活動への貢献として、学生の成果につなげられるように指導している。管理運営に関しては、当学科の組織の一員として自覚し、役割を果たすようにしている。社会活動として、本学での学会企画の活動に参加するなどの役割・地域産学連携などに協力している。また、組織の中で研究活動の継続ができ、日ごろの研究活動は研究発表に繋がり学術発展、社会活動の貢献を目指している。

2. 理念（教育に対する考え方）

人は、心と身体が相関している。人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、真に人間を理解し、活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む。これらの大切なエッセンスが詰まった本学の建学の精神があります。ぜひ、全文を熟読していただきたいと思います。それを共感し合えることを想像すると嬉しくなります。

ナイチンゲールは、一生涯のいつの時は誰もが **nurse** になると云っています。その **Nurse** は全ての人にとって最も貴重で、身近な存在なのです。人々の幸福を願って、心身共に健康で、**QOL**(生活の質)を向上できるように支援していく役割は、最高に求められているものだと思います。

看護は、知識、技術、態度、また、精神面の多面的理解を深めるための教育を要します。看護精神の基本である倫理観や責任感を養い、自分が選択した道の自己実現に向けて行動してほしいと思います。そんな自分を想像してみてください。夢に一步近づくことでしょう。私はそのための力になりたいです。

医療人になるということは、生涯学習することになります。私のモットーは **stay hungry stay foolish** です。とにかくたくさん学びたい、しかし、学ぶほどに不足を思い知ります。だから謙虚に取り組んでいます。また、期待していることは、思いもよらない偶然に出くわす喜び（セレンディピティ）です。ここに縁でつながる人を大切にしながら、人生クレッシェンドを持論に日々を大切にしたいものです。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

学生の学習成果目標は、本学においては右手にライセンス、左手に生きる力をキャッチフレーズに進めています。私たち教員はこの2つを身に付けた学生を社会に送り出すことが責任です。医療職者は生涯学ぼうとする意欲が必要で持続性を持った能力と人間性が求められます。自身がキャリア形成でき、与えられたことをしっかり「やり抜く力」を高めることを大切にしています。また、**Knowledge for well-being**：よりよく生きるための知恵として本学のコア科目を学び、生きるための力として、必要な多くのリテラシーから問題解決能力が身に付くようにしています。そして、グローバルな視点でも総合的なものの見かたを大切にしています。

具体的には、基礎的な知識・技術の習得は必須・当然のことで、いかに吸収できるかを考え、授業内容に合わせて臨床での経験や人生の経験の中から学習結果に結び付ける工夫をしています。学生への接し方は、医療分野の内容は難しいので、やり抜くためにも理解しやすい関連づけを見つけて話すようにしています。また、一方向の授業とならないように学生主体の学びができるようにアクティブラーニングを多く取り入れて、学生と双方向のやり取りをし、学生同士の学びから自分にはない考えが得られ、同感・共有したり、違和感・違いを想像して考えたりと多様性の学びの場となっている。リアクションペーパーにはたくさん個別の意見・感想が寄せられるが、実際のアクティブラーニングの最中ではみんなの前で意見を述べる学生はまだ少ない。そのため気長く取り組んでいます。成功している教員の模範授業から教わりたいと考えています。ディスカッションなどの中で自分の考えを意見として表出できるようにしたい。実際の現場に出ると、カンファレンスで自分の受け持ち患者の代弁者として発言しなければその患者さんのためにならないことなどを話して理解を求めています。また、学生と教員の距離を程よい関係に保てるように工夫するにはどうすればよいのかを考えて、一つはZ世代に関する学習をプライベートで行い特徴を把握した対応ができるように努めています。自身の心理相談員の資格を生かすことや、サークル活動で顧問をしているので学生の近い存在でありたい。学生の可能性も考えて世界的な時事も折に触れ取り入れ、グローバルな興味関心につなげられるようにしています。多様な価値観があり、尊重し合う精神は目指している医療界に必要な要素だということを授業や授業以外の大学生生活で伝えています。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

学生さんからの授業評価として、講義のメイン内容を具体的な臨床経験や人生経験などを多く話してくれるので分かりやすく、興味がわいてくるとポジティブな評価をいただいている。医療関係の講義内容は難しく覚えにくいので、できるだけイメージしやすい何かと関連付けて覚えてもらうように工夫しているつもりです。また、アクティブラーニングを多く取り入れているので楽しいという学生もいますが、一方、苦手な学生もいて難しい場面も多くあります。発表するのは嫌だとネガティブな声もあります。しかし、レポート課題においては、とても感動する内容が多くあります。学生同士が本音でディスカッションできる場づくりが課題です。

成果・評価は、授業前後で短期的にわかりやすいのは、毎回の授業後に回収するリアクションペーパーに記載された内容で把握することができ、ポジティブ、ネガティブな多くのことが情報として得られます。授業の発表会、研究発表会なども学生の意見を知りえる良いチャンスとしてとらえています。試験や就職の結果を聞いての評価を把握するのも成果・評価となります。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

本学の教育理念・ポリシーなどを踏まえ、責務、理念、方法、成果の自己省察を通しての目標
教育活動の中短期目標（1～2年で実現）

本学の教育理念・ポリシーなどを俯瞰し、自己の教育活動を自己省察した。まず、本学の理念と自己の理念に対する現実の齟齬がないかを確認した。気づかない面があるかもしれないが、取り立てる齟齬はないと考える。その中で自ら一番に感じていることは、理想通りの結果が得られないアクティブラーニングではないかと考える。これは自分にとって好んで積極的に実施している授業方法なのに期待する結果が得られていない。そこで、これを不足として解決する手立てを目標にする。

背景：アクティブラーニングは学生の主体的学習方法に有用である。一方向でなく双方向のコミュニケーションが取れる。アクティブラーニングのメリットは多く、積極的に取り入れている。学生側からは、グループワーク、ディスカッション、ディベートなど自己が目立つことはしたくないと、受け身の従来の講義形式で一方向的に聞いていたいとの声が多い。学生の声として、グループワークのメンバー交換の希望が続出するので、看護の現場に入ると、人を選ぶことができないので誰とでもコミュニケーションをとれるように訓練するのも学びの一つであると話す、抗議かストレスで欠席してしまう学生もいる。また、グループワークで話が弾み、よい状態があり発表を求めると、発表は目立つからや、「あの人はできる」と思われたくない。また、調べ学習では、面倒くさい、教えてくれればよいなど自分で学習する習慣が身についていない。リアクションペーパーには個々がとても良い記載がされているのにと考え込んでしまう。すべての教育活動に通じるテーマなのでこれを目標にする。

中短期目標（評価：ルーブリック検討）

方法 アクティブラーニングの授業をする理由の説明をする（理解を図る）

- ・メリットを伝える（デメリットも考察する）

解決策 学生・教員の環境を整える

- ・グループメンバー表の配慮・クラスの間関係のコミュニケーション技術を向上させる
- ・学生に多くの発言の機会を作る・仲間と活動することで深い学びとなる実感につなげる
- ・授業内容への興味・関心度を高める
- ・成功している授業を参考にする（他教員と情報共有し、良い影響を受ける）

成果 授業・発表会時、意見・質問が多く出るようにする

- ・アクティブラーニングの満足度を上げる

エビデンスとなる項目の資料

1. 責務：シラバス、時間割、依頼・任命書、担当表
2. 理念：組織図、教学マネジメント・ハンドブック、教職員の行動指針、倫理綱領
3. 方法：教学マネジメント・ハンドブック、シラバス、授業・グループワーク案、スライド・動画・写真資料、配布資料、レポート課題、テスト問題
4. 成果：授業評価の結果、学生のレポート内容、研究論文の内容、国家試験の結果、就職状況、同僚からのフィードバックコメント、
5. 目標：組織の目標、教学マネジメント・ハンドブック、